

第2次飯塚市観光振興基本計画の見直しについて（概要版）

経済建設委員会 資料①
令和6年3月7日提出

1 飯塚市観光振興基本計画策定委員会開催の状況

- ・令和5年11月24日 第1回委員会の開催 委員会に諮問
(内容) 計画期間中であるため基本方針は変更しない
- 見直しは目標を下回っている項目及び未着手項目の11の取り組み
- ・令和5年11月25日～12月15日 委員から個別意見聴取
- ・令和5年12月12日 近畿大学学生との意見交換
- ・令和5年12月26日 第2回委員会の開催
(内容) 個別意見聴取を踏まえ基本計画見直し案を提示・了承
- ・令和6年2月27日～3月12日 パブコメの実施
- ・令和6年3月下旬 第3回委員会の開催 市長に答申
- ・令和6年4月～ 第2次飯塚市観光基本計画（改訂版）策定

2 基本計画見直しの視点

第2次計画の検証結果や観光を取り巻く現状及びアンケート調査から考えられる本市における観光の課題

- ①観光推進体制・・・観光協会の移転及び主要施設と連携し、観光案内所の機能を持った拠点づくりを検討
- ②情報発信・・・ビックデータなどの活用も含め、来訪者の動向やニーズの分析を行い、大学生と連携しSNS等を活用した情報発信の制度を導入
- ③持続可能な観光・・・地域と観光旅行者の双方が観光のメリットを実感できる観光地としての質の向上を重視した観光へと転換

3 見直しを踏まえた今後の飯塚市の観光について

飯塚市における観光客とは、通勤や通学以外で目的をもって本市を訪れる人と位置付けます。それら観光客を増やしていくためには、来訪者の動向やニーズを検証し、人をつなげていくことが重要です。そのため、次のような観光キャッチフレーズを掲げ、観光の推進に取り組んでいきます。

観光キャッチフレーズ
「ヒトトコネクト」
近畿大学生提案

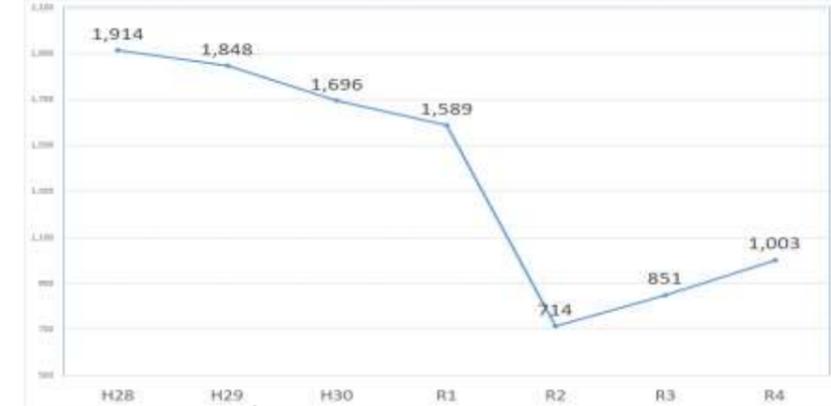
これまで知られていない、もっと知ってほしい施設や自然、イベントなどの観光資源を活用し、スポーツ・ヘルス・ファン・アドベンチャーといった様々なコンテンツでのツーリズム等、人を惹きつける魅力的な資源と観光客をつなぐことで、訪れた人が、新たに自分の好きなコトや好きなモノを見つけ、何度も訪れたい楽しみることができる「いいつか推し」の観光客を増やしていきます。

●第2次基本計画の進捗状況 令和5年1月30日 飯塚市観光推進協議会の評価

基本方針	取組数	○	△	×	対象外
(1)観光推進体制の確立・強化	8	5	1	2	0
(2)既存資源の活用・観光資源の発掘	5	2	2	1	0
(3)情報発信の強化	4	2	1	1	0
(4)インバウンド観光客誘客の促進	5	4	1	0	0
(5)広域連携の推進	4	4	0	0	0
(6)受入環境の充実	6	3	1	1	1
合計	32	20	6	5	1

○・・・目標を達成及び概ね達成 △・・・目標を下回っている ×・・・未着手

●飯塚市観光入込客数の推移（単位：千人）



●行ってみたいスポット



4 11の取り組みの変更内容

6つの基本方針	具体的取り組み	変更前	変更後
(1)観光推進体制の確立・強化	①観光推進組織の設立	○	○
	②観光専門家設置及び観光セミナーの実施	○	○
	・観光専門家の設置	○	○
	・観光セミナーの実施	○	○
	③飯塚観光協会の機能強化	△	×
	・法人化等	△	×
・事務所移転	△	×	
(2)既存資源の活用・観光資源の発掘	④市民意識の醸成	○	○
	・市民向け情報発信	○	○
	・次世代への伝承の取組み	○	○
	⑤飯塚版DMOの設立の検討	×	×
	①体験型観光の充実	△	△
	②地域素材を活かした特産品づくり	○	○
・お土産等の新たな商品開発	○	○	
・新たなご当地グルメ開発	○	○	
③新たな観光資源の発掘	○	○	
・学生向けモニターツアー	△	△	
・フォトコンテスト	△	△	
(3)情報発信の強化	①プロモーションツールの充実	○	○
	②ICT技術を活用した情報発信	△	△
	③大学生向けの情報提供の仕組みづくり	×	×
	④観光マスコットキャラクター製作	○	○
(4)インバウンド観光客誘客の促進	①営業活動の強化	○	○
	②留学生による情報発信	△	△
	③ウェブサイトの多言語化	○	○
	④訪日外国人観光客受入環境の整備	○	○
・公衆無線LANの整備	○	○	
・市内事業者向け研修会等	○	○	
(5)広域連携の推進	①自治体や観光事業者間の協力体制の構築	○	○
	②筑豊地域での広域連携	○	○
	・モデルルート開発	○	○
・プロモーション動画、パンフレット制作	○	○	
③テーマ別広域連携	○	○	
(6)受入環境の充実	①観光案内看板等の整備	○	○
	②観光案内所の機能を持つ拠点づくり	×	×
	③二次交通手段の導入	△	△
	④民泊の啓発	○	○
	⑤景観整備	○	○
	⑥宿泊施設の誘致	○	○
基本計画の修正			
変更前		変更後	
1-3 飯塚観光協会の機能強化 飯塚観光協会は早期に法人化し、組織力を強化するとともに自主事業や受託事業等による自立化を図ります。また、観光協会の事務所を来訪者に利便性のある場所への移転を検討します。		1-3 飯塚観光協会の機能強化 飯塚観光協会は、平成31年に法人格を取得、組織力を強化してきました。今後は自主事業や受託事業等に力を入れ、財政基盤の強化を行い、自立化を図ります。また、観光協会の事務所については来訪者に利便性のある場所への移転に関して、メリットとデメリット、費用対効果等を含めて、総合的に検討を行います。	
【変更理由】 平成31年4月に法人格を取得。収益増を目指しているが、課題あり。移転先についても、総合的に検討を行う必要があるため。			
変更前		変更後	
1-5 飯塚版DMO設立の検討 DMO設立に向けて飯塚観光協会等の既存組織の拡充案、新組織設立案の両面から比較・検討を行います。飯塚版DMO設立後は本市における観光客誘客戦略の立案やマーケティング、営業、観光事業者支援を行う専門家を設置し、戦略的な観光振興を図ります。		1-5 飯塚版DMO設立の検討 DMO設立に向けて飯塚観光協会等の既存組織の拡充案、新組織設立案及び広域観光を目的とした組織など比較・検討をし、方針の決定を行います。	
【変更理由】 DMO設立に向け情報収集等検討は行っているものの実現には至っていない、飯塚単独あるいは広域を含め検討を行い、2027年度までに方針を決定するため。			
変更前		変更後	
2-1 体験型観光の充実 本市の主な観光資源である「近代化産業遺産」「長崎街道」「古代」「スポーツ」「自然・温泉」等を活かした体験型プログラムを充実させ、旧伊藤邸右衛門邸や高橋劇場、スポーツ関連施設を訪れる観光客にPRすることで周遊促進、滞在時間の延長を図ります。また、本市の特色であるスポーツ関連施設を中心に他の観光資源と連携し、スポーツ宿泊や研修旅行の誘致を推進します。		2-1 体験型観光の充実 飯塚市、嘉麻市、桂川町による広域連携事業において、地域の特性、ポテンシャルを活用した新たな観光地域づくりにおいて、体験型のプログラムが作成されています。今後は、それらプログラムについて、他地域との差別化を図り、利用に繋げていきます。特に、グランピング施設「ザ・リリット」等アウトドアの観光及び宿泊を伴う観光施設において、スポーツ関係団体をはじめ各種関係者等へのPRを含めた情報発信を行ってまいります。また、他地域との差別化を図るため、商店街などの空き店舗を利用した体験型観光の検討を行います。	
【変更理由】 広域連携において、体験型プログラムは拡充されてきたものの、作成済みであるプログラムについて、商品化につなげていくことが必要であるため。			
変更前		変更後	
2-3 新たな観光資源の発掘 市内3大学の学生向けモニターツアーを実施し、若者目線の観光資源発掘を行うとともに大学生と連携して若者向けメニューを設定します。また、本市の観光資源をテーマとしたフォトコンテストを開催して、観光客が訪れてみたくなるような新たな観光スポットを発掘します。		2-3 新たな観光資源の発掘 市内3大学の学生向けモニターツアーを定期的の実施し、若者目線のモデルコースの設定など、観光資源発掘を行うとともに、大学生と連携しSNSを利用した情報発信を行います。また、本市の観光資源をテーマとして、フォトコンテストを開催して、観光客が訪れてみたくなるような新たな観光スポットを発掘します。	
記載なし		2-4 新たな観光資源となるイベントの検討(新規追加) 花火大会などのイベント開催時には、市外からも多数集客していることを鑑み、新たな観光資源となる集客の見込めるイベントを検討・実施していきます。本市の特色である市内3大学の大学生をはじめとした若者等の意見も取り入れながら、集客力があり、かつ継続性のあるイベントを目指します。	
【変更理由】 大学生向けモニターツアーについて、観光協会の一部実施したものの、3大学での実施には至っていない。また花火大会などのイベント開催時に集客が見込めるため、新たな観光資源となるイベントを検討する。			
変更前		変更後	
3-2 ICT技術を活用した情報発信 ICT技術を活用した効果的な情報発信を行うため観光情報や食の情報、旬な情報の提供、多言語化など幅広い観光客のニーズに対応できるようなマップやアプリを市内大学や企業と連携して開発します。		3-2 ICT技術を活用した情報発信 ICT技術を活用し、観光情報や食の情報、旬な情報の提供、多言語化など幅広い観光客のニーズに対応できるような効果的な情報発信を定期的に行ってまいります。	
3-3 大学生向けの情報提供の仕組みづくり 市内3大学の学生と定期的に情報交換する場を設定し、観光情報やイベント情報を提供して、大学生で情報発信してもらえる仕組みを構築します。また、SNS等を活用した情報発信を条件に特典を設けるとともに、Instagram、TikTok等の大学生に効果的なSNSでの情報発信を行います。		3-3 大学生の情報提供の仕組みづくり 市内3大学の学生と定期的に情報交換する場を設定し、観光情報やイベント情報について、市内大学生と連携し、SNS等を活用した情報発信を条件に特典を設けるとともに、Instagram、TikTok等の大学生に効果的なSNSでの情報発信を行います。	
【変更理由】 マップやアプリの作成を優先させるのではなく、SNSを活用した定期的な情報発信に優先的に取り組むことが、観光客への注目度の向上につながると考えられるため。			
変更前		変更後	
6-2 観光案内所の機能をもつ拠点づくり 観光客利便性向上のため、主要施設と連携し、観光案内所の機能を持った拠点づくりを推進します。		6-2 観光案内所の機能をもつ拠点づくり 観光客の利便性向上や観光産業における生産性向上に取り組むため、観光案内所の機能を持った拠点づくりについて、無人化を含めた検討を行います。	
6-3 二次交通手段の導入 主要駅やハスターミナルと観光施設を結ぶ二次交通手段としてレンタサイクルの実証実験を行うとともに、観光客による観光コース・割引プランの設定など、他の交通手段についても検討を行います。		6-3 二次交通手段の導入 主要駅やハスターミナルと観光施設、宿泊施設等を結ぶ二次交通手段として、観光客による観光コース・割引プランの設定、観光地を周遊するバスの運行、シェアサイクル等を含め、様々な交通手段について検討を行います。	
【変更理由】 観光客の利便性向上や観光産業における生産性向上のためにも無人案内所を検討する。二次交通については、実証実験を行ったシェアサイクル事業が終了したことに鑑み、二次交通手段の導入及びその必要性について、再検討が必要であるため。			